

小学校 社会

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

小学校社会科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って明確化した。また、「社会的な見方・考え方」については、小学校社会科の特質を踏まえ、「社会的事象の見方・考え方」と言い換え、資質・能力全体に関わるものとして位置付ける方向で教科の目標の改善を図った。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

「内容」については、その示し方が、以下のとおり大きく改められています。



[A] について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識や技能を身に付けること。

(ア) [B] を理解すること。

(イ) [C] などで調べて、[D] などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) [X、Y、Z] などに着目して、[E] を捉え、[F] を考え、表現すること。

※ A = 学習のテーマ B = 知識（理解させたい事柄） C = 調べる技能

D = 調べたことのまとめ方の技能 E = 調べる活動を通して捉えさせたい事実

F = 考えさせること X、Y、Z = 調べる視点（着眼点）

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

- 第3学年と第4学年の目標と内容について、系統的、段階的に整理して示した。また、地図帳の使用を第3学年からとした。
- 内容について、中学校への接続・発展を視野に入れて、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活、の三つに整理した。また、①、②は空間的な広がり念頭に地域、日本、世界、③は経済・産業、政治及び国際関係、と区分して整理するよう改善を図った。
- 我が国や地方公共団体の政治の仕組みや働き、世界の国々との関わりに関心を高めるとともに、社会に見られる課題を把握して社会の発展を考える学習の充実を図った。また、人口減少や地域の活性化、国土や防災安全に関する内容の充実を図るとともに、情報化による生活や産業の変化、産業における技術の向上などに関する内容についても充実を図った。

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

児童の実態や教材の特性を考慮して学習過程を工夫し、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、主として用語・語句などを含めた具体的な事実に関する知識を習得することが大切である。また、それらを踏まえて、社会的事象の特色や意味など社会の中で使うことのできる応用性や汎用性のある概念などに関する知識を獲得するよう、問題解決的な学習を展開することも大切である。さらに、学んだことを生活や社会に向けて活用する場面では、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断することなどの活動を重視することも大切である。

◆主体的な学びについて

児童が社会的事象から学習問題を見だし、その解決への見通しをもって取り組むようにすることが求められる。そのためには、学習対象に対する関心を高め問題意識をもつようにするとともに、予想したり学習計画を立てたりして、追究・解決方法を検討すること、また、学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見いだしたりすること、さらに、学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることが必要である。

◆対話的な学びについて

学習過程を通じた様々な場面で児童相互の話合いや討論などの活動を一層充実させることが求められる。また、実社会で働く人々から話を聞いたりする活動についても今後一層の充実が求められる。さらに、対話的な学びを実現することにより、個々の児童が多様な視点を身に付け、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるようにすることも大切である。

◆深い学びについて

社会的事象の見方・考え方を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、調べ、考え、表現する授業を実現するためには、教師の教材研究に基づく学習問題の設定や発問の構成、地図や年表、統計など各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する活動などを工夫することが大切である。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善については、新学習指導要領の総則の趣旨を踏まえて、「単元のまとめ」を見通しながら、工夫することが大切です。



③見方・考え方について

「社会的な見方・考え方」は、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」である。

「社会的な見方・考え方を働かせ」とは、そうした「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより児童生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことを併せて表現している。

視点	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目する。
方法	社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりする。

(3) 評価について

①評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめている。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

②「内容のまとめりとごとの評価規準」を作成する際の手順について

小学校社会科における内容のまとめりとごとは、各学年の各内容の(1)(2)・・・のことである。

まず、学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解する。その上で、**手順1**及び**手順2**の手順を踏む。

手順1 社会科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

<p>【学習指導要領の内容】</p> <p>(例) 4年(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」</p> <p>(2) 人々の健康や生活環境を支える事業について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。</p> <p>----- (略) -----</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(イ) 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。</p>	<p>(下線) …知識及び技能に関する内容</p> <p>(波線) …思考力、判断力、表現力等に関する内容</p>
---	---

手順2 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりとごとの評価規準」を作成する。

◇観点ごとのポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・「知識」については、学習指導要領に示す「2内容」の「知識」に関わる事項に示された「…を理解すること」の記述を当てはめ、それを児童が「…理解している」かどうかの学習状況として表し、評価規準を設定する。</p> <p>・「技能」については、学習指導要領に示す「2内容」の「技能」に関わる事項に示された「…調べたりして、…まとめること」の記述を当てはめ、それを児童が「…調べたりして…まとめている」かどうかの学習状況として表し、評価規準を設定する。</p>	<p>学習指導要領に示す「2内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項に示された「…着目して、…を捉え、…考え、…表現すること」の記述を当てはめ、それを児童が「…着目して、…を捉え、…考え、…表現している」かどうかの学習状況として表し、評価規準を設定する。</p>	<p>学習指導要領に示す「2内容」に「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項が示されていないことから、学年目標や観点の趣旨を基に評価規準を設定する。ここでは、目標に示されている、「主体的に問題解決する態度」と「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」について「主体的に問題解決しようとしている」かどうかと「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」について「主体的に問題解決しようとしている」かどうかの学習状況として表し、評価規準を設定する。</p>

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 単元名 「廃棄物を処理する事業」(第4学年)

(2) 単元の目標

◇廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。 ②廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付けて廃棄物の処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	①廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしている。

(4) 指導と評価の計画 (全10時間)

	ねらい	○主な学習活動・内容	評価方法と評価規準
1	たくさんのごみのゆくえについて話し合い、学習問題をつくらることができるようにする。	○家や学校等から出るたくさんのごみのゆくえについて話し合い、学習問題をつくる。 ・家や学校、市(町村)から出るゴミの量・ごみの種類や出し方 ・学習問題の設定 など	発言内容やノートの記述内容から、「処理の仕組みや再利用などに着目して、問いを見だしているか」を評価する。 【思-①】
ごみの処理にたずさわる人々は、たくさんのごみをどのようにして処理しているのでしょうか。			
2	学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てることができるようにする。	○学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。 ・学習問題解決に向けた予想 ・学習計画の立案 清掃工場の見学 リサイクルセンター調べ	発言内容、ノートの記述内容や学習計画表から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。【態-①】
3 4	見学・調査したり資料で調べたりして、清掃工場が燃えるごみを処理する様子を調べることができるようにする。	○清掃工場が燃えるごみを処理する様子を見学・調査したり各種資料を活用したりして調べる。 ・清掃工場が燃えるごみを処理する仕組み ・清掃工場の仕事の工夫や苦労	ノートや見学カードへの記述内容、学習計画表への記録などから「必要な情報を集め、読み取り、燃えるごみを処理する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。 【知-①】
【10の視点】⑦学習評価の推進			
『～しているか』という姿をあらかじめ具体的に想定しておくことで、「努力を要する」すなわち「～していない」と評価せざるを得ない児童への指導の手立てが明確になります。			

5	資料を活用し、リサイクルセンターが燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する様子を調べることができるようにする。	○リサイクルセンターが燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する様子を各種資料を活用して調べる。 ・燃えないごみ、資源ごみ、粗大ごみを再利用する仕組み ・リサイクルセンターの仕事の工夫や苦勞	ワークシートの記述内容や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、燃えないごみや資源ごみ、粗大ごみを再利用する仕組みなどについて理解しているか」を評価する。【知一①】
6	見学・調査したり資料で調べたりしたことをまとめ、話し合い、学習を見直すことができるようにする。	○これまで調べてきたことをまとめ、さらに調べるべきことについて話し合う。 【まとめること】 ・ごみ処理の仕組みや経路 ・ごみ処理に関わる人々の働き 【さらに調べるべきこと】 ・灰の処理に関する問題	ノートの記述内容や学習計画表から「これまでの学習を振り返り、さらに調べるべきことを見だし、見通しをもって追究しようとしているか」を評価する。【態一①】
【10の視点】④思考の整理 ⑧学習を振り返る活動の設定			
単元の途中でこれまでの学びを振り返る場を設定することで、学習してきたことが整理でき、新たに調べるべきことを見いだすことができます。			
7	市(町村)が行っているごみ処理問題の解決策を調べ、計画的な取組について考えることができるようにする。	○市(町村)がごみ処理問題を計画的に解決している様子を調査したり各種資料を活用したりして調べ、市(町村)の取組について考える。 ・市(町村)が現在のごみ処理問題を解決している様子 ・市(町村)がこれまでのごみ処理問題を解決してきた様子	ノートの記述内容から「現在に至るまでに衛生的に処理する仕組みが作られ、計画的に改善されてきたことについて考え表現しているか」を評価する。【思一①】
8	調べたことを基に、学習問題について話し合い、ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考え表現することができるようにする。	○学習問題について話し合い、ごみを処理する事業の果たす役割について考える。 ・ごみ処理事業の役割についての自分の考え	ノートの記述内容や発言内容などから「学習したことを基にごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考え表現しているか」を評価する。 【思一②】
 <p>単元のまとめりを見直し、目標の実現状況が児童の反応から顕著に見られる場面を「評価したことを記録に残す場面」として明示しています。(「指導と評価の計画」の網掛け部分)。</p>			
9	調べたことをもとに、学習問題について図や文にまとめることができるようにする。	○学習問題について調べたことや話し合ったことに基づいて、ごみ処理の仕組みや経路、人々の協力関係などについて図や文にまとめる。 ・学習問題に対するまとめ	ノートの記述内容から、「廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、それらは生活環境の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。【知一②】
10	様々な立場からごみを減らすための呼びかけをしていることについて考え、ごみを減らすために自分たちに協力	○様々な立場からごみを減らすための呼びかけをしていることについて話し合い、ごみを減らすために自分たちにできることは何か考	ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力

	<p>できることは何か考えようとする態度を養う。</p>	<p>え、発表し合う。 ○ごみを減らすために自分たちにできることについてノートに自分なりの考えをまとめる。 ・ごみを減らす呼びかけおよびその理由 ・リサイクル法 ・世界のごみ処理の様子 ・ごみを減らすために自分たちが協力できること</p>	<p>できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。【思－②】 ノートの記述内容から「単元の学習を振り返り、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしているか」を評価する。【態－②】</p>
--	------------------------------	---	--

学習過程【学習問題をつかむ】 1・2時【学習問題を追究する】 3・4・5・6・7時
【まとめる】 8・9・10時

（５）観点別学習状況の評価の進め方

〈１〉効果的・効率的な評価のための工夫

① 評価したことを記録に残す場面を明示

指導した結果としての学習状況の評価結果として記録に残すことは、観点別の評価結果を総括する際に必要である。そのためには、ノートやワークシート、学習計画表等の記述内容を評価資料として収集することが大切である。

本単元では、評価資料の収集を効果的・効率的に行うことができるよう、指導と評価の計画を作成する際に、評価したことを指導に生かすことに加え、全ての児童から評価資料を収集して評価したことを記録に残すものに焦点化して、評価資料の収集・記録を心掛けた。

その際、単元のまとまりを見通し、目標の実現状況が児童の反応から顕著に見られる場面を「評価したことを記録に残す場面」として明示した（「指導と評価の計画」の網掛け部分）。

② 児童一人一人の学習状況を把握し、指導に生かすための工夫

児童一人一人の学習状況を把握して、指導に生かすためには、評価規準に照らして、「どのような評価資料から、どのような具体的な姿を捉えるのか」という評価方法を明確にしておく必要がある。そのことを「指導と評価の計画」では学習状況を具体的に捉えるために「～（評価資料）から、『～しているか』を評価する」という記述でまとめている。『～しているか』という姿をあらかじめ具体的に想定しておくことで、「努力を要する」すなわち「～していない」と評価せざるを得ない児童への指導の手立てが明確になる。

例えば、本単元では、清掃工場の見学・調査活動（3・4/10 時間）においては、「ノートや見学カードへの記述内容（評価資料）」から、「必要な情報を集め、読み取り、燃えるごみを処理する仕組みなどについて理解しているか」という具体的な姿を想定している。この指導と評価の計画を基に実際の学習活動を通して児童の学習状況を捉え、「～調べ、～まとめ、～理解している」という知識・技能の観点で評価している。

〈２〉各観点の評価

○「知識・技能」

【知－①】では、【学習問題を追究する】段階の「調査・見学したり資料を活用したりして調べる場面」において、ノートの記述内容や発言内容を通して評価する。

具体的には、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて、清掃工場やリサイクルセンターで見学・調査したり各種資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を具体的に理解しているかを評価する。

【知－②】では、【まとめる】段階の「調べたことを基に学習問題について図や文にまとめる場面」において、ノートの記述内容などを通して評価した。具体的には、学習問題の解決のために調べたことをノートにまとめた内容などから、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう進められていることや、それらは生活環境の維持と向上に役立っていることをまとめ、具体的に理解しているかを評価する。

○「思考・判断・表現」

【思－①】では、【学習問題をつかむ】段階の「問いを見いだす場面」と【学習問題を追究する】段階の「学習問題の解決のために考え表現する場面」それぞれにおいて、「社会的事象に着目して、問いを見だし、社会的事象の様子について考え表現しているか」という学習状況を発言内容やノートの記述内容から捉えて、評価する。

具体的には、「問いを見いだす場面」では、発言内容やノートの記述内容から、「学校や家庭、市全体として出るごみの量や種類のグラフ」や「ごみの分別表」、「ごみステーションやごみ収集車、清掃工場やリサイクルセンターの写真」から処理の仕組みや再利用などに着目して、「どのようにごみを集めているのだ

ろう」「集めたごみはどのように処理しているのだろうか」「再利用は、どうしているのだろうか」などと問いを見だし、考え、表現しているかを評価する。

また、【まとめる】段階の「考え表現する場面」では、見学・調査や聞き取り調査などを行ったり各種資料を活用したりして調べた際のノートの記述内容を通して、現在に至るまでに衛生的に処理する仕組みが作られ、計画的に改善されてきたことについて考え、まとめているかを評価する。

【思一②】では、【まとめる】段階の「学習問題について話し合う場面」と「新たな課題を把握し、社会への関わり方を選択・判断する場面」それぞれにおいて、「(比較・関連付け、総合など)して社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているか」という学習状況をノートの記述内容や発言内容から捉えて、評価する。

具体的には、「学習問題について話し合う場面」では、ノートの記述内容から、学習したことを基にごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考え、説明するなどして表現しているかを評価する。

また、「新たな課題を把握し、社会への関わり方を選択・判断する場面」においては、ノートの記述内容から、学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているかを評価する。

○「主体的に学習に取り組む態度」

【態一①】では、【学習問題をつかむ】段階の「予想や学習計画を立てる場面」において、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面を発言内容、ノートの記述内容や学習計画表を通して評価する。

また、【学習問題を追究する】段階の「学習を見直す場面」において、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を発言内容、ノートの記述内容から評価する。

具体的には、「予想や学習計画を立てる場面」では、発言内容、ノートの記述内容から、学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているかを評価する。

「学習を見直す場面」においては、ノートの記述内容や学習計画表から、これまでの学習を振り返り、学習を見直し、まだ解決しきれていない灰の処理の仕方について解決の見通しをもとうとしているかを評価する。

【態一②】では、【まとめる】段階の「新たな課題を把握し、社会への関わり方を選択・判断する場面」において、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする側面をノートの記述内容や発言内容から評価する。

具体的には、ノートの記述内容から、学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしているかを評価する。

(6) 観点別評価の総括

本事例では、以下の考え方で単元の観点別評価における観点ごとの総括を行った。

- 評価を行う場面や頻度の精選を踏まえ、単元を通してそれぞれの観点の実現状況が把握できる段階で、評価したことを記録に残し、総括的な評価を行った。
- 評価したことを記録に残す場面では、「十分満足できる」状況(A)、「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)の3段階で評価し、それ以外の評価場面では、評価規準に照らして「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導や支援を行うことを重視した。
- 観点ごとの総括の方法は次のように考えた。

知識・技能と思考・判断・表現については、単元後半において行った評価結果を重視した。それは、最後の評価場面における評価結果は、継続的に指導を積み重ねた結果の学習状況であると捉えることができるからである。ただし、主体的に学習に取り組む態度については、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしている「主体的に問題解決しようとする態度」【態一①】と、「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている」【態一②】という二つの態度について評価することになる。そこで、それぞれの趣旨を踏まえて評価をすることから、最後の評価場面の評価結果だけを重視するのではなく、二つの態度を一体的に見取りつつも、それぞれの態度を積極的に評価するという考えから、評価結果が二つ以上の場合、A→AをA評価、C→CをC評価とした。

	評価規準 [] 内数字は時数を表す	Y児	U児	M児
知識・技能	【知一①】【③④】			
	【知一①】【⑤】			
	【知一②】【⑨】	A	B	B
	単元の総括的な評価	A	B	B
思考・判断・表現	【思一①】【①】			
	【思一①】【⑦】			
	【思一②】【⑧】	A	B	B
	【思一②】【⑩】			
主体的に学習に取り組む態度	単元の総括的な評価	A	B	B
	【態一①】【②】			
	【態一①】【⑥】	A	B	C
	【態一②】【⑩】	A	A	B
	単元の総括的な評価	A	B	B

中学校 社会

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

地理的分野	ア	世界と日本の地域構成に関わる内容構成の見直し
	イ	地域調査に関わる内容構成の見直し
	ウ	世界の諸地域学習における地球的課題の視点の導入
	エ	日本の諸地域学習における考察の仕方の柔軟化
	オ	日本の様々な地域の学習における防災学習の重視
歴史的分野	ア	歴史について考察する力や説明する力の育成の一層の重視
	イ	歴史的分野の学習の構造化と焦点化
	ウ	我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実
	エ	主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実
	オ	様々な伝統や文化の学習内容の充実
公民的分野	ア	現代社会の特色、文化の継承と創造の意義に関する学習の一層の重視
	イ	現代社会を捉える枠組みを養う学習の一層の充実
	ウ	現代社会の見方・考え方を働かせる学習の一層の充実
	エ	社会に見られる課題を把握したり、その解決に向けて考察、構想したりする学習の重視
	オ	国家間の相互の主権の尊重と協力、国家主権、国連における持続可能な開発のための取組に関する学習の重視
	カ	課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの一層の重視

②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

主体的な学び	主体的な学びについては、生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。
--------	---

対話的な学び	<p>対話的な学びについては、例えば、実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動の一層の充実が期待される。しかしながら、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘される所であり、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ることが求められる。</p> <p>また、主体的・対話的な学びの過程で、ICTを活用することも効果的である。</p>
深い学び	<p>深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる。</p>

③見方・考え方について

◇「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であると考えられる。社会科としての本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情等にも作用することなどを踏まえ、資質・能力全体に関わるものであると考えられる。

◇各分野の特質に応じて整理した「社会的な見方・考え方」

社会的事象の地理的な見方・考え方	「社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて働かせるもの。
社会的事象の歴史的な見方・考え方	「社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりして働かせるもの。
現代社会の見方・考え方（公民的分野）	「社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けて働かせるもの。

④移行措置について

年 度	内 容
H30年度～R2年度	現行中学校学習指導要領第2章第2節の規定にかかわらず、その全部又は一部について新中学校学習指導要領第2章第2節の規定によることができる。
H30年度～R2年度	「領域の範囲や変化とその特色」（地理的分野）、「富国強兵・殖産興業政策」（歴史的分野）、「世界平和と人類の福祉の増大」（公民的分野）の指導に当たっての内容の取扱いについて、新学習指導要領の規定による。
H31年度～R2年度	<p>地理的分野及び歴史的分野の授業時数の配当について、新学習指導要領の規定により、授業時数を両分野に適切に配当する。</p> <p>「世界の諸地域」（地理的分野）の指導に当たり、「世界の様々な地域の調査」を併せて指導する。</p> <p>「世界の古代文明」「ユーラシアの変化」「ヨーロッパ人來航の背景」「市民革命」（歴史的分野）の指導に当たっての内容の取扱いについて、新学習指導要領の規定による。</p>

(3) 評価について

学習指導要領の目標の規定を踏まえ、観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したものが、観点の趣旨です。

① 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

② 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順について

中学校社会の「内容のまとめりごとの評価規準」は、「内容のまとめり」である学習指導要領の各「中項目」の記載事項を基に作成する。

手順1 社会科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

【学習指導要領の内容】(例) (歴史的分野) 「A 歴史との対話 (1) 私たちと歴史」

「内容のまとめり」
となる中項目

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解すること。

(イ) 資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現すること。

(下線) : 知識及び技能に関する内容
(下線) : 思考力、判断力、表現力等に関する内容

手順2 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

◇観点ごとのポイント

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習指導要領に示す「2 内容」に関わる事項に示された記述に当てはめる。 ・「知識」は「…理解すること」を生徒が「理解している」か、「技能」は「…身に付けること」を生徒が「身に付けている」か、どうかの学習状況として表す。	学習指導要領に示す「2 内容」に関わる事項に示された記述に当てはめる。 ・「思考・判断・表現」は「…考察(、構想)し、表現すること」を生徒が「考察(、構想)し、表現している」かどうかの学習状況として表す。	・学習指導要領に示す「2 内容」に「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項が示されていないことから、「分野別の評価の観点及びその趣旨」における内容を基に作成する。 ・冒頭の「…について」の部分は、学習指導要領上の「諸事象」を当てはめ、「よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究(、解決)しようとしている(地理的分野・歴史的分野)」か、「現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている(公民的分野)」かどうかの学習状況として表す。 (*例外となる箇所あり)

◇この手順により作成した「内容のまとめりごとの評価規準」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ・資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりする技能を身に付けている。	・時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。	・私たちと歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

「内容のまとめり」
となる中項目

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 単元名 公民的分野：大項目C 私たちと政治 (2) 「民主政治と政治参加」

(2) 単元の目標

- 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。
- ◇国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること、地方自治の基本的な考え方について理解する。
 - ◇民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
 - ◇民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

(3) 単元の評価規準

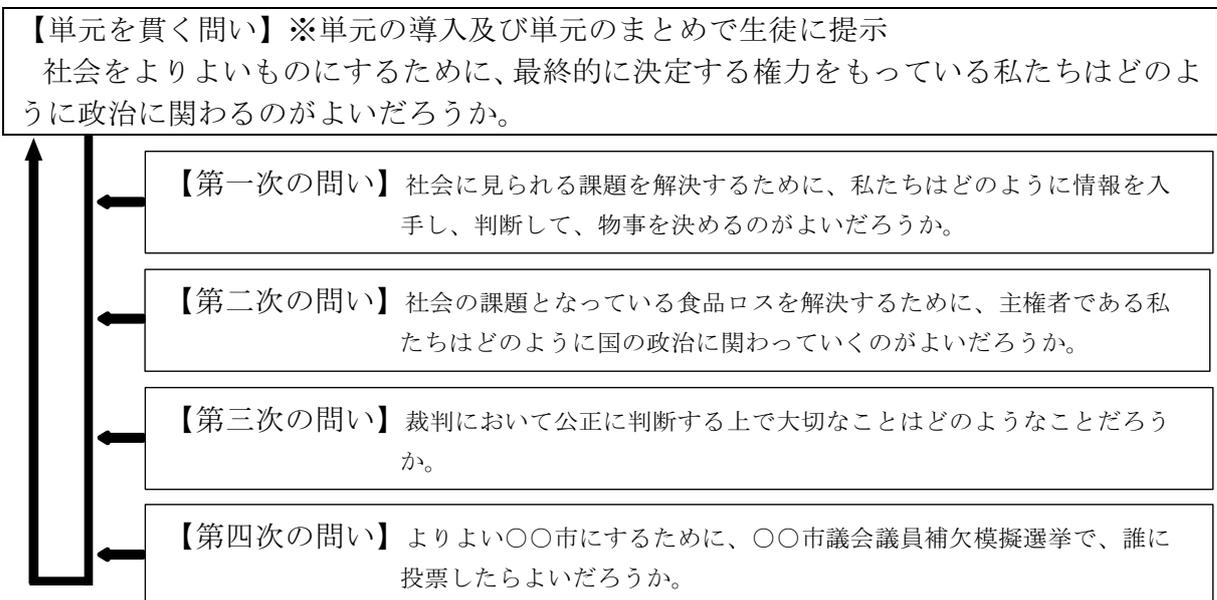
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。 ・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

(4) 指導と評価の計画 (22時間)

①単元の指導計画

- 単元の導入「社会を担う主権者となるためには」・・・・・・・・・・ (1時間)
- 第一次「社会の課題を解決するためには」・・・・・・・・・・ (4時間)
- 第二次「社会の課題に国全体で取り組むためには～食品ロスを例に～」・・・・・・・・ (6時間)
- 第三次「公正な裁判の保障により人々の人権を守るためには」・・・・・・・・・・ (4時間)
- 第四次「私たちが住む地域の課題を私たちの力で解決していくためには」・・・・ (6時間)
- 単元のまとめ「主権者として社会に参画するためには」・・・・・・・・・・ (1時間)

②単元における問いの構造



③指導と評価の展開例

○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

次	ねらい・学習活動等	評価の観点			評価規準（評価方法）
		知	思	態	
単元の導入 1時間	<p>【ねらい】単元を貫く問い「社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。」について、疑問を出し合うなど対話的な活動を通して学習課題を設定するとともに、この問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に役立ちそうな情報を挙げたりするなど、課題解決への見通しをもたせる。</p> <p>◇（学習活動の概要）グループでの対話的な学習で、単元を貫く問いに対する疑問を挙げながら、学習課題を設定するとともに、課題解決への見通しを立てる。</p> <p>問（主発問）「社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。」について、疑問はないだろうか。また、この問いをどのように解決したらよいだろうか。 〔予想される疑問〕 「よりよい社会とはどのような社会か。」 「様々な考えがある中で、どのようにして社会全体で取り組むのか。」 など ＜指導上の留意点＞ ・大項目C(1)の「人間の尊重についての考え方」「日本国憲法の基本原則」や小学校社会科における我が国の政治に関する学習成果を生かすようにする。</p>			●	●対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、学習課題を見だし、この問いに対する答えを予想したり、この問いの解決に役立ちそうな情報を挙げたりするなど、解決への見通しを立てている。（ワークシート）
	<p>【第一次のねらい】選挙や政党など、様々な人の意見をまとめ、課題を解決するためにどのような仕組みが整えられているかを理解させ、民主政治の推進には公正な世論の形成が必要なことについて考察させる。</p> <p>【第一次の問い】社会に見られる課題を解決するために、私たちはどのように情報を入手し、判断して、物事を決めるのがよいだろうか。</p> <p>◇身近で具体的な事例から、多数決の運用の在り方について考察する活動を通して多数決の原理とその運用の在り方について理解する。</p> <p>問 様々な立場の人々の意見をどのようにまとめていったらよいだろうか。</p> <p>◇対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し、選挙に関する資料などを読み取り、選挙の意義や現状について考察し、表現する。</p> <p>問 なぜ選挙が行われるのか。</p> <p>◇政党が議会制民主主義の運営上不可欠であることを歴史的分野の学習を踏まえ、理解するとともに、政党の主義、主張をインターネットで検索する。</p> <p>問 政党はどのような役割を果たしているのか。</p> <p>◇政党に関する資料を読み取り、民主政治において、表現の自由と本次で学習したことを基に情報を批判的に読み取るなどとして、メディアリテラシーが重要であることを理解するとともに、議論することを通して、国民の政治参加の意義について考察する。</p> <p>問 主権者として自分の考えを政治に反映させるためにはどのような方法があり、どのようなことに留意すべきか。</p>	●		●	●選挙に参加することの重要性について理解を深めている。（ワークシート） ●対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と選挙との関連について多面的・多角的に考察し、分かりやすく表現している。（ワークシート）
第二次 6時間	省 略				
第三次 4時間	省 略				
第四次 6時間	<p>【第四次のねらい】地方自治についての理解を深めさせるとともに、私たちの住む地域をよりよい市にするために、どのように地方自治に関わり、課題を解決していくべきか、対話的な活動を通して深めたことを基に考察、構想させる。</p> <p>【第四次の問い】 よりよい〇〇市にするために、〇〇市議会議員補欠模擬選挙で誰に投票したらよいだろうか。</p>				
	◇地方自治の意義について、身近な事例を基に考察し、理解する。	●			●直接請求権の意味について理解している。（ワークシート）

<p>第四次 6時間</p>	<p>問 地方公共団体の政治は、私たちの生活にどのような影響をもたらすだろうか。</p> <p>◇地方公共団体や地方自治の仕組みについて国の仕組みと比較しながら考察し、理解する。</p> <p>問 地方公共団体はどのようにして住民の願いを実現しているのだろうか。</p> <p><指導上の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上の二つの問いについては、国の政治の仕組みと比較することにより、地方自治の特色を見いださせる。 <p>◇模擬選挙の資料（立候補者の政策）を読み取り、地元の地方公共団体の財政などについて調べ、考察し、選択・判断する（模擬投票を行う）。</p> <p>問 あなたの願いを実現させるために、誰に投票したらよいただろうか。</p>		<div data-bbox="949 197 1356 492" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>考察や構想にあたり「対立と合意」「効率と公正」などに着目しているかどうかを確認します。着目できていない場合は、概念の復習や指導・助言を行った上で「評定に用いる評価」を行いましょう。</p> </div>  <ul style="list-style-type: none"> ● 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、政策の優先順位を考察、構想し、候補者を選び、判断に至った自らの考えを分かりやすく表現している。（ワークシート、発言） ○ 地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務など、地方自治の基本的な考え方について理解している。（ワークシート、ペーパーテスト）
<p>単元のまとめ 1時間</p>	<p>【「単元のまとめ」のねらい】単元を貫く問いに戻り、主権者である国民の政治参加の在り方について考察、構想させる。また、単元の学習を振り返らせる。</p> <p>【単元を貫く問い】社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいただろうか。</p> <p>◇前次に実施した模擬選挙の投票と結果に対する考察を基に、社会をよりよいものにするために主権者として政治にどのように関わるかを考察、構想する。</p> <p>問 【単元を貫く問い】社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいただろうか。</p> <p><指導上の留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫く問いに対し自らの考えをまとめる際は、具体的な現実社会の諸課題を取り上げ、社会参画を視野に、自らの行動と結び付けて考察、構想するよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 	<div data-bbox="1077 1153 1460 1355" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、主権者として政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。（ワークシート）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入に立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。（ワークシート） ○ 我が国の政治や政治参加について関心を持ち、問いを見だし、その社会的意義を記述している。（ワークシート）

生徒が「主体的・対話的で深い学び」に向かう適切な問いを設定するためには、指導計画を作成する際、それまでの生徒の学習状況などを的確に把握し、問いに対する生徒の発言や活動をよく予測した上で、必要な助言、支援を準備しておくことが大切です。



(5) 観点ごとの評価の総括

- ・○印は、観点別学習状況の評価を記録に残す場面を示している。これらは後に総括し、評定のための資料として用いることを想定している（「評定に用いる評価」）。
- ・●印は、評価を記録する必要はないが、例えば、日常的な机間指導や話合いの様子、ワークシートの活用なども含め、学習の過程で生徒の状況を把握したり、確認したりすることを通して、学習改善につなげる場面を示している（「学習改善につなげる評価」）。
- ・単元の導入時と後のまとめにおける学習状況を比較して、長期にわたる生徒の成長や変化を確認したりする際にも参考とするなど、適切な場面を選択しつつ、「評定に用いる評価」を行う際に活用することも考えられる。

・単元における観点ごとの評価については、「評定に用いる評価」を基に、下表のように行うことが考えられる。

氏名	観点	単元の導入	第一次	第二次	第三次	第四次	単元のまとめ	単元の観点別評価
◇◇	知・技		●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%	●→ ○25%		A～C
	思・判・表		●	●	●	●	○100%	A～C
	主体的態度	●		●			○100%	A～C

(6) 授業展開例

【公民的分野 C 私たちと政治 (2) 民主政治と政治参加】

第四次「私たちが住む地域の課題を私たちの力で解決していくためには」

①本時のねらい

立候補者のマニフェストを聞いたり読んだりすることを通して、誰に投票すべきか考察し、根拠をもって選択・判断し、表現する（模擬選挙の実施）。

②本時の評価規準

(知・技) 地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。

(思・判・表) 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、政策の読み取り等から考察、構想し、選択・判断し、表現している。

③本時(第四次6/6)の展開

学習活動	○主な発問や指示 ・予想される生徒の反応	・留意点 ●○評価 ()方法 ※手だて
1. 第四次を貫く問いを確認する。	○第四次を貫く問いを確認し、本時はこの問いについて考える時間であることを伝える。	【10の視点】①魅力的な課題・教材の提示 既習事項、身近な話題等に関連させつつ、前向きに考えられる、または考えられそうだと、見通しのもてる課題を提示しましょう。
2. 選挙の課題について確認する。	○日本の選挙にはどのような課題があるだろうか。 ・投票率が低い。 ・一票の格差が大きい。	
3. 模擬選挙(マニフェスト発表)を行う。	あなたの願いを実現させるために、誰に投票したらよいだろうか。 ○班の代表にマニフェストを発表させる。	【10の視点】⑤説明・発表の機会の充実 話し合いや発表では、「社会的な見方・考え方」を働かせ、確かな根拠を示すことが大切です。
4. 誰に投票すべきか判断し、投票する。	○より説得力があり、より良い町づくりに適した政策を提案しているかどうか判断して選ぶよう伝える。	●対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、政策の優先順位を考察、構想し、誰に投票するか選び、判断に至った自らの考えを分かりやすく表現している。(投票用紙、ワークシート) ・時間をかけ過ぎない。
【10の視点】④思考の整理	公民的分野では「対立と合意」「効率と公正」等の「見方・考え方」を働かせながら課題解決の方法を考えることが大切です。	
5. 開票し結果を発表する。	○開票し、投票結果を確認しよう。	
6. 本時のまとめ	○本時の学習を振り返ろう。	○地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務等、地方自治の基本的な考え方について理解している。(ワークシート、ペーパーテスト)
【10の視点】⑧学習を振り返る活動の設定	毎時間の振り返りの積み重ねが、「単元を貫く問い」に迫る上での適切な材料になります。確実に時間をとりましょう。	

「評定に用いる評価(○)」や「学習改善につなげる評価(●)」が位置付けられていない学習場面でも、生徒の学習状況を確認し、生徒の学習改善や教師の指導改善に生かして、生徒の資質・能力を確実に育むことが大切です。

